

## 取締役会全体の実効性の分析・評価の結果

サンコール株式会社 取締役会

当社取締役会は、その役割・責務を実効的に果たすため、取締役会全体が適切に機能しているかどうか運営状況等を定期的に検証・課題抽出し、問題点の改善や強みの強化等の措置等を講じていくことを継続的プロセスとし、毎事業年度終了後に“取締役会全体の実効性評価”として自己評価・分析を実施しております。

2023年度の自己評価・分析につきましては、外部機関の助言を得ながら以下の方法で行いました。

2024年2月に取締役会の構成員であるすべての取締役(監査等委員を含む)を対象にアンケートを実施しました。回答方法は外部機関に直接回答することで匿名性を確保いたしました。外部機関からの集計結果の報告を踏まえたうえで、2024年4月の定時取締役会において、分析・議論・評価を行いました。その1.評価項目、2.当期首に掲げていた課題への取組実績、3.分析・議論・評価の結果を踏まえた2024年度の課題は以下のとおりです。

## 1. 評価項目

当社取締役会は、取締役会としてその役割・責務を適切に果たしているかどうかを確認する評価項目を設定しております。そして、その評価項目については重要ポイントや優先課題の変化に合わせて毎年見直していくこととしております。

### 【2023年度の評価項目】

- 1.取締役会の構成
- 2.取締役会の運営
- 3.取締役会の議論
- 4.取締役会のモニタリング機能
- 5.社外取締役(監査等委員含む)のパフォーマンス
- 6.取締役(監査等委員含む)に対する支援体制
- 7.トレーニング
- 8.株主(投資家)との対話
- 9.ご自身の取組み
- 10.総括

## 2. 前年度の実効性評価の結果として認識した2023年度の課題と、それへの取組実績

2022年度の評価結果を踏まえ、2023年度は次の項目を課題としておりました。

### 1. 経営理念・戦略の確立

中長期での経営戦略に関する具体的な討議ができるよう、市場や事業の課題を提示しながら議論を深めていくこと。

(2023年度の取組み)

喫緊の重要課題に時間を要したため、全体的な中長期の経営戦略に関する深い議論には至りませんでした。個々の案件については事業方針について説明の場を設け、今後の戦略を議論できるところまで市場環境や課題についての理解は進んだと認識しております。

### 2. 中期経営計画

進捗状況を着実にモニタリングするために中期経営計画に関する議論の場を年度予定に組み込み、継続的に課題や優先度に基づいた議論を行うこと。

(2023年度の取組み)

喫緊の重要課題に時間を要した為、ローリング予測数値の提示に留まり十分な議論の時間を持つことができませんでした。

### 3. 審議の活性化

各個別審議事項が、全社計画の中でどのような位置づけにあるのかを明確にさせることにより、経営レベルの議論ができるようにすること。

(2023年度の取組み)

案件の論点を理解しやすい資料や説明となるよう、報告者への指導を継続してきました。

各議題の審議時間を、資料説明時間と質疑応答時間に分けて設定し、特に社外取締役からの意見を伺う時間を確保しました。

これら方策により活発な意見交換がなされるようになりましたが、引き続き議論の深度を上げていくため、戦略や計画との関連を把握できる具申説明となるように改善していきます。

### 4. 取締役のトレーニング

取締役向けセミナーについては法令対応のみならず、ニーズを吸い上げ、専門スキルを含めた幅広い項目で機会を用意すること。

工場見学・事業説明などの場を引き続き持つことで、理解を深められるように努めること。

(2023年度の取組み)

外部機関による取締役向けオンラインセミナーを受講できるように案内しました。

工場見学、部門責任者による事業説明会を定期的で開催し、事業内容について理解を深めていただく機会を持ちました。

## 3. 2023年度の分析・議論・評価の結果を踏まえた2024年度の課題概要

当社取締役会は、分析・議論・評価の結果、継続的に改善が進んでいることを確認しました。

またさらなる改善に向けて、以下の点について今後の課題と確認しました。

1. 中長期での経営戦略に関する具体的な討議ができるよう、取締役会の年間スケジュールに組み込んだ上で、市場や事業の課題を提示しながら議論を深めていくこと。
2. 中期経営計画の進捗状況、課題や優先度をモニタリングするとともに、次期計画については策定時から取締役会にて議論を行ない、広範な意見を反映させること。
3. グループ全体の内部統制システム構築に関する基本方針に基づき、子会社を含めたその構築・運用状況の監督・監視ができるよう、取締役会にて適宜報告すること。
4. 株主や投資家との対話の状況について、取締役会へのフィードバックを行うこと。

当社取締役会は、このようなプロセスの継続により、取締役会の実効性維持・向上に取組み、企業価値向上を目指してまいります。

以上